# 英語版アニメ作品に見る翻訳の問題：『千と千尋の神隠し』の場合

山　田　健太郎

## On Problems of Translation in English Version of Anime: A Case Study of *Spirited Away*

Kentaro YAMADA

### 0．はじめに

近年，日本のアニメーション（以下，日本アニメ）に対する海外の人気は，ますます勢いを増しているといえよう。グローバル化時代の日本のソフトパワーとして，国内でも広い分野で日本アニメへの関心が高まりつつある。そのことは，津堅信之による『日本アニメーションの力』や日経ＢＰ社技術研究部編『進化するアニメ・ビジネス』など，日本アニメを論じた書籍の国内での出版が，目立って増えつつあることからも窺い知ることができる。また，2002年に日本語訳が出た，日本文学研究者であるスーザン・Ｊ・ネイピアの『現代日本のアニメ』は，アメリカでの日本研究における日本アニメの浸透ぶりを日本にまで伝えた現象ととらえることができる。『千と千尋の神隠し』が2003年アカデミー賞をアニメーション部門で受賞したことも，この流れを勢いづかせたといえよう。

しかしながら，海外で日本アニメがどのように受け入れられているのか，どのような日本文化輸出となっているかについては，国内で漠然とした期待をもって考えるほど単純な話ではないようである。草薙聡志が『アメリカで日本のアニメは，どう見られてきたか？』で明らかにしているように，『千と千尋の神隠し』がアカデミー賞を受賞したことは，日本文化が海外の人々に深く理解されるようになったことを必ずしも意味しないのが，残念ながらまだ現状である。そこには異文化理解の問題が横たわっている。日本文化が異文化としてどのように受容されるのか，という問題である。

このような問題を視野に入れながら，本論考では，『千と千尋の神隠し』の英語版を対象に，そこにおける翻訳の問題について考察をする。

### 1.0　翻訳理論から『千と千尋へ』

翻訳が人類史上のかなり初期段階から行われていたであろうことは，今さら論じるまでもない。Eugene Nida は，歴史上に記録された公式な翻訳でも，少なくとも紀元前3000年前まで遡りうると述べている（Nida 11）。しかしながら，翻訳は原著に対する２次的な存在として，いわば影の存在として扱われてきた。その翻訳を対象とする学問である翻訳学が活況を呈してきたのも，ようやく最近になってのことである。Lawrence Venuti は，翻訳学が学問領域の一つとしての認知を得たのは20世紀に入ってのこととしている（Venuti 1）。Susan Bassnet は，翻訳学が科学的な研究としてその信頼性を認められたのは1970年代後半になってのことであり，学問として定着し

たのはグローバル化の1990年代だと述べている（Bassnet 1)。翻訳学が1970年代以降に学際的な学問として急速に伸張しつつあることは，Venuti によって編纂された翻訳学読本に収められた論文の時代ごとの本数と各時代を概括する文章を比較すれば明らかである。理論体系が充実すると同時に対象も広がり，マルティメディア作品の翻訳についての研究も増えつつある。その一つの成果ともいえるのが，Yves Gambier と Henrik Gottlieb が編纂した論文集（*Multi*) *Media Translation* である。

以上の簡単な翻訳学の概観をしたところで，翻訳学における基本的な問題を確認し，『千と千尋の神隠し』英語版の具体的な考察へ進むことにする。

### 1.1　翻訳における等価物の問題

翻訳の問題でもっとも基本的なものは，等価物（equivalence）である。原典の言語と翻訳の目標言語との間で等価物を対応させる，というのが翻訳の基本的な図式である。例えば，日本語の著作を英語に翻訳する場合，「犬」の等価物として“dog”という単語を対応させるのがそれである。しかしながら，等価物として対応する単語が2つの言語間で常に存在するとは限らない。原典の中の単語に相当する単語が，翻訳の目標言語に見つからない場合がしばしば生じる。等価物が見つからない時にどのようにするかが，翻訳の問題であり，その問題をどのように理論的に説明するかが，翻訳学の重要な課題である。

Bassnet が，翻訳学の入門書で紹介しているように，等価物の類型や翻訳のプロセスについての理論は様々である（21-44)。ここでは，理論上の精緻な議論には立ち入らずに，翻訳が基本的に意味論的プロセスであること。すなわち翻訳は，原典と目標言語の間にある異文化の壁を越えて，言葉と言葉，あるいは語句と語句の対応そのものよりも，その意味がほぼ等価となるようにコードを置き換えるプロセスであるという Bassnet の立場と，翻訳の場面では常に等価物の欠落が問題となるということを確認して，考察を進めることにする。

### 1.2　対象選択と問題の範囲

ここで翻訳の問題を考察する対象として『千と千尋の神隠し』の英語版を取り上げる理由について若干述べておくことにする。まず問題の出発点として，日本アニメの海外での視聴を通して，異文化としての日本文化はどのように受け入れられるのか，という興味がある。そのことを明らかにするためには，作品の内容が日本的なものである方が望ましいとの見地から考察対象を選定した。ＳＦ的主題や海外を舞台とする作品より，日本の日常生活に近い世界を描いた作品の方が，英語版への翻訳における異文化の問題がより鮮明に浮かび上がると考えたからである。

さらに，日本アニメの英語版を対象に翻訳について論じる際に問題となるのが，翻訳作品と呼ぶものの範囲である。日本アニメがアメリカ市場に導入された初期においては，作品の内容が編集されるのがほとんど当然のこととされ，原作とはまったく異なるストーリーとしてアメリカ市場に出回ることも決して珍しいことではなかった。その事情は最近でも大きな違いはない。顕著な例として，草薙はアメリカで Robotech として1993年から94年にかけてアメリカで放映された作品が，日本では別々の3つのシリーズ作品（『マクロス』,『超時空騎団サザンクロス』,『機甲創世記モスピーダ』）を組み合わせて，原作とはまったく別の筋立ての3部作となったことを紹介している（草薙，158-161)。つまり，日本アニメの英語版を対象に翻訳を論じる際には，どの程度までの編集を翻訳という作業の範囲内とみなすかという複雑な問題が絡むのである。『千と千尋の神隠し』の場合は，1999年の日本国内での大ヒットを受けてのアメリカ進出であり，また宮崎駿監督に対するアメリカのアニメーション関係者の評価もすでにきわめて高く，さらに英語

版製作の総監督が熱烈な宮崎ファンの John Lasseter であったこともあり，かなり原作に忠実なものとなっている。文学作品の場合に近い翻訳作業が行われたとみなすことができよう。

翻訳における異文化の問題が鮮明に表れていることが予想されること。英語版が原作の翻訳作品として見なしうること。これらが『千と千尋の神隠し』とその英語版を考察の対象として選択した理由である。

## 2.0『千と千尋の神隠し』と Spirited Away の比較

以下，原作『千と千尋の神隠し』とその英語版 *Spirited Away* を比較し，その相違点について考察をする。

### 2.1　視覚上の相違点

上でも述べたように，日本アニメの英語版が制作される場合には，様々な形の編集が行われるのが通常である。時には，映像に修正が入ることすらある。『千と千尋の神隠し』の場合，映像上の原作と英語版との相違点はほとんどない。唯一確認されたのは原作の冒頭に現れる映画のタイトルが英語版では「Spirited Away」に入れ替えてある点である。観客にとっての作品世界は視覚上すべて日本語の世界となっているので，観客にとって若干違和感があるのではないかと思われるが，作品のタイトルを英訳した以上しかたのないことであろう。

### 2.2　効果音

効果音もまた，日本アニメの英語版ではしばしば加工される。映画においてと同様にアニメーション作品で効果音が視聴者の作品鑑賞に及ぼす影響はきわめて大きいだけに，当然の配慮ともいえる。たとえば，同じ宮崎駿監督作品の『魔女の宅急便』の英語版においても，原作にない効果音が加えられ，またキキが修行の旅に出発するときのテーマ音楽も入れ替えられている。「Spirited Away」の場合，効果音に加えられた修正もまた極めて少ない。わずかに確認されたのは，物語の前半で，夕闇が訪れて神々を乗せた船が着き，千尋が混乱して逃げていく場面の背景音として，英語版でやや大きく街の騒音が入っているくらいである。音の世界に関する限り，原作に忠実な再現となっているといえる。

### 2.3　名前の変更

日本アニメの英語版においては，名前もしばしば変更が行われる。たとえば，『鉄腕アトム』は，「アトム」は「Astro」に変更され，題名もそれに伴い英語版では Astro Boy に変更されている。また，比較的最近の例を挙げれば，テレビ・アニメ『ポケットモンスター』の主人公サトシは英語版では Ash とまったく別の名前になっている。『千と千尋の神隠し』での名前の場合，名前についての変更はかなり少ない。湯婆婆や銭婆については，それぞれ Yubaba, Zeniba として音だけがそのまま移されている。原作における，それぞれの人物の仕事と名前との連想は，英語版には移されていない。「釜爺」（Kamaji）については，ハクが千に「釜爺」の所へ行く道順を教える場面で，名前に続けて“the boiler man”と説明をつけるが，ストーリーの大半においては，名前と仕事との連想はまったく暗示されない。神様の名前については，「お腐れ様」は「stink spirit」，「お白様」は「radish spirit」，と若干の意味におけるずれを含みながら翻訳されているが，その他の登場人物は，ほとんどが原作のままである。しかしながら，「カオナシ」だけは“No Face”と名前が翻訳されている。この気味悪い側面と同情を引く側面をあわせ持つ奇妙な存在には，存在を定義づける意味のある英語名が必要だったのであろう。

### 2.4　英語版と原作のスクリプトの比較

英語版のスクリプトにおいては，上の映像や名前の変更に比較すると，かなり多くの原作との違いがある。英語版を作成する際に，英語圏の，特にこの場合アメリカの，視聴者に異文化の作品を受け入れやすいものとする上で極めて重要なのは，この吹き替え作業であり，その意味でこれは当然のことといえる。ここには原作の文化と視聴者の背景となる文化の違いが明確に現れ，異文化の境界線における興味深い現象が観察されるところである。以下，顕著な違いがあるものについて，場面ごとに原作と英語版のスクリプトを対照しながら考察をしていく。なお，このスクリプトは，原作の絵コンテと英語版映画をもとに出版された英語コミックを参考に作成した。相違点を見やすくするため，適宜イタリクス表記を使用した。

#### 2.4.1　スクリプトにほぼ対応がある変更の場合

引用1

| | | |
|---|---|---|
| Chihiro: | What are those stones?<br>They look like houses. | 千尋：「あのうちみたいの何？」 |
| Mother: | They are shrines. *Some people think little spirits* live there. | 母：「石の祠。神様のおうちよ。」 |

引用1は，映画の初めの場面からのものである。荻野家が引越しすることになり，後部座席でふてくされた表情の千尋を乗せて，父親が車を運転し母親が助手席に座っている場面から映画は始まる。途中で父親が道を間違えてしまい，舗装されていない山道を進むと，千尋が珍しいものを見る。ここで興味深いのは，母親の台詞である。英語版の“Some people think”は，この石の祠についての考えを自分が必ずしも共有しないことを意味する。これは，原作では日本人として当然の知識として母親が話すのとニュアンスが異なる。英語版では，アメリカ人にとって違和感のある日本人の多神教的宗教観をここで一部の人々とすることで，作品を受け入れやすくしようとしたものであろう。

引用2

| | | |
|---|---|---|
| Sen: | There's so much water. It looks like a sea | 千：*街がある。海みたい。* |
| Lin: | What did you expect after all that rain?<br>I've got to get out of this place.<br>Some day, *I'm getting on that train.* | リン：当たり前ジャン。雨が降りゃ海ぐらいできるよ。<br>*オレいつかあの街に行くんだ。*こんなところ絶対やめてやる。 |

引用2は，物語の中ごろで，千尋（ここでは千）がまぎれ込んだ世界で働くことになった「油屋」という神々のための銭湯で，「お腐れ様」の騒動がおさまり，自分たちの部屋でくつろぐ千が外を見ている場面である。ここでは，原作の「街」が英語版では削除されている。千尋たちが入り込んだこの世界で「街」が何を具体的に意味するのかは，作品の最後まで曖昧なままである。ここには日本人にとって「まち」という言葉が含む複雑なイメージがそのまま表現されている。英語版ではこの漠然とした「街」という存在を含む曖昧な世界観を避けて，より合理的なものにしようとしたと考えられる。

引用 3

| | | |
|---|---|---|
| Kamaji: | *You killed it! Those things are bad luck. Hurry, before it rubs off on you! Put your thumbs and fore-fingers together. Evil be gone!* | 釜爺：エーンガチョ。　千。<br>エーンガチョ。<br><br>*切った。* |

引用 3 は，銭婆のハンコについていた虫を踏み潰してしまった千に，日本独特の悪運除けのまじないを釜爺がする場面である。対応するものが英語に（アメリカに）ないので，ここではやや説明的な台詞で，うまく内容が伝わるように工夫されている。

引用 4

| | | |
|---|---|---|
| Sen: | You should go back to where you came from. *Yubaba doesn't want you in the bath house any longer.* | 千：あなたの来た所へ帰った方がいいよ。*私が欲しいものは，あなたにはぜったい出せない。* |
| No Face: | Ah. Ah. | カオナシ：… |
| Sen: | Where is your home? *Don't you have any friends or family?* | 千：おうちはどこなの。*お父さんお母さんいるんでしょう。* |
| No Face: | No...No...<br>I'm lonely... I'm lonely... | カオナシ：いやだ...いやだ...<br>さみしい...さみしい... |
| Sen: | *What is it that you want?* | 千：おうちがわからないの？ |

引用 4 は，宴会場で大暴れしているカオナシのもとに，千が行き対決する場面である。全体の話の流れには変更はないが，言葉のやり取りが若干異なる。もっとも大きな違いは，カオナシは人間の欲望につけこんで取り入るのだが，千にはその欲望がない，という原作のモチーフは削除され，替わりに湯婆婆がカオナシのふるまいにうんざりしたという説明が挿入されている点である。さらに，ここを出て行かないのは，帰るところがわからないからなのか，というカオナシに対する千の問いも，英語版では，何が欲しいのかという問いに変えられている。原作のやりとりの中にあった，千のカオナシにたいする共感と，カオナシの出現の起因となった人間の欲望というものを問題化する側面は，この場面からは消され，ただ単に，迷惑をかけているので出て行って欲しいという，単純化された話となっている。

引用 5

| | | |
|---|---|---|
| Kamaji: | You blacked out, remember? | 釜爺：*お前，何も覚えてないのか？* |
| Haku: | Yeah, I remember being in darkness. Then I could hear Sen's voice calling out my name. I followed her voice, and next thing I knew... I was lying here, feeling better than ever. | ハク：切れ切れにしか思い出せません。闇の中で千尋が何度も呼びました。その声をたよりにもがいて，気がついたらここにいました。 |
| Kamaji: | *Pure love. It broke Zeniba's spell. She left to return the gold seal. She did it to save you.* | 釜爺：*そうか千尋か。あの子は千尋というのか。いいなあ，愛の力だなあ。* |

引用5は，千にニガダンゴを飲まされたハクが飲み込んでいた銭婆の印鑑と黒い虫を吐き出し，ようやく意識を取り戻した場面である。この場面の最後の釜爺の台詞は，英語版ではまったく違うものに置き換えられている。原作の「いいなあ，愛の力だなあ」という曖昧な表現は，英語版でははっきりと，愛の力で銭婆の魔術がとかれたという説明となっている。それに加えて，この引用箇所の少し前でのハクの質問に答えるかたちで，千がどこにいったのかについての説明が続いている。原作のあいまいなコミュニケーションのやりとりは，英語版では論的な対応をしっかりとした応答へ改変され，同時にハクはなぜ助かったのか，についても合理的な説明が台詞の中に見出せるようになっている。

引用6

| | | |
|---|---|---|
| Yubaba: | *Very clever, Haku.* I get it. *You'll get my baby back, but at a price.* | 銭婆：*なるほどね。性悪女め。それで私に勝ったつもりかい。* |
| | Hee-Hee. | ヒヒヒ。 |
| | So, what do you want? | それで，どうすんだい。 |
| Haku: | *Tear up Sen's contract.* And then I want you to return Sen and her mother and father back to the human world. | ハク：*ボウを連れ戻してきます。*そのかわり，千と両親を人間の世界に戻してやってください。 |
| Yubaba: | *Fine. But on one condition. I give Sen final test. If she fails, she's mine.* | 湯婆婆：それで，おまえはどうなんだい。*その後，私に八つ裂きにされてもいいんかい。* |

引用6は，最愛のボウがいなくなったことに湯婆婆がようやく気付いた場面である。ここで興味深いのは，原作では，湯婆婆は自分の双子の姉妹である銭婆にむかって悪態をついているのが，英語版ではハクを相手とした取引を会話の中でしている点である。姉妹同士の争いのモチーフはここにはない。かわりにハクとの取引と，それに加えて千と両親が人間の世界に戻れるための条件が明確にここで決められ，原作では曖昧なままとなっていたことがここで明確にされている。引用場面最後の，原作でのハクに対する脅しのことばは，英語版にはない。この表現は字義通りに翻訳されればあまりに暴力的と判断されたとも考えられる。

引用7

| | | |
|---|---|---|
| Zeniba: | What? The protective spirit is gone. | 銭婆：あれ，守りのまじないが消えているよ。 |
| Sen: | I'm sorry. You mean that black slug that was on your seal? I think I squashed it with my foot. | 千：すいません。あのハンコについていた変な虫，私が踏みつぶしちゃいました。 |
| Zeniba: | Squashed it? Ahahaha! | 銭婆：踏みつぶした?! アハハハ。 |
| | That wasn't my slug. My sister put that slug in Haku so she could control him. | あんた，その虫はね，妹が弟子をあやつるために，龍の中に忍び込ませた虫だよ。 |
| | You squashed it... Ahahaha. | 踏み潰した！アハハハ。 |
| | *What happened to my spell?* | さっ，お座り。*おまえはカオナシだね。*お前もお座りな。 |
| | *Only love can break it.* Come now. | |

引用7は，千が銭婆を訪ねて印鑑を返す場面である。この場面の最後でも，引用5の箇所であった，銭婆のまじないが消えたのが千の愛の力であるという説明が，英語版では繰り返される。原作でのカオナシに話かける言葉に置き換えて銭婆の口からもこの説明がなされることで，まじないが解けたしくみを観客に納得させるためと考えられる。同時に，英語版では原作に比べて「愛」の力というモチーフがかなり前面に出されている。

引用8

| | | |
|---|---|---|
| Sen: | Haku, listen. I just remembered something from a long time ago. *I think it may help you.* Once when I was little, *I dropped my shoe into a river. When I tried to get it back,* I fell in. *I thought I' d drown, but the water carried me to shore.* It finally came back to me. That river's name was the Kohaku River. I think it was you, and your real name is Kohaku River. | 千：ハク，聞いて。*お母さんから聞いたんで，自分では覚えてなかったんだけど。*私，小さい時に川に落ちたことがあるの。その川はもうマンションになって埋められちゃったんだって。でも，今思い出したの。<br>その川の名は。<br>その川はね，コハク川。<br>あなたの本当の名は，コハク川。 |
| Haku: | You did it, Chihiro! I remember. *I was the spirit of the Kohaku River.* | ハク：千尋，ありがとう。<br>*私の本当の名は，ニギハヤミコハクヌシだ。* |
| Sen: | A river spirit? | 千尋：ニギハヤミ？ |
| Haku: | *My name is the Kohaku River.* | ハク：ニギハヤミコハクヌシ。 |
| Sen: | *They filled in that river. It's all apartment now.* | 千尋：*すごい名前。神様みたい。* |
| Haku: | *That must be why I can't find my way home, Chihiro.* I remember you falling into my river, and I remember your pink shoe. | ハク：私も今思い出した。<br>千尋が私の中に落ちた時のことを。<br>靴を拾おうとしたんだ。 |
| Sen: | So you were the one who carried me back into the shallow water. You saved me. *I know you were good.* | 千尋：そう。コハクが私を浅瀬に運んでくれたのね。<br>うれしい。 |

引用8は物語のクライマックスともいえる，千が記憶の中からハクの名前を呼び戻す場面である。原作の中でもっとも翻訳しにくい場面といえよう。「ニギハヤミコハクヌシ」という名前は翻訳不可能である。名前の響きに神のことをさすことを感じ取る，日本特有の文化背景のもとで成立するこの表現を英語に翻訳するのはきわめて難しい。英語版はこの問題を巧みに回避し，見事に台詞を作り上げている。対応箇所を詳細に検討すればわかるように，一連の台詞の中で内容がかなり移動しているが，全体としては，ほぼ同じ印象が与えられるようになっている。ただし，最後の千尋（千）の英語版での台詞は，作品のなかで違和感があるように思われる。

### 2.4.2　英語版スクリプトに台詞が追加されている場合

ここまでは，英語版の台詞がある程度原作と対応する箇所を主に上げてきた。ただし，一応対応物が置かれているとはいえ，詳細に見比べれば，全体として原作よりも英語版の方が台詞の言葉が多いことに気付く。翻訳をする際に，単語レベルや語句レベルでの等価物が見つからない場合は，同等の意味が翻訳で伝わるためにどうしてもより多くの言葉を費やすことになるのは，一般的な文学作品の翻訳で常にある現象である。日本アニメ英語版の作成においても，事情は同じであると言えよう。時には原作では人物が話してない場面に英語版で台詞が入れられている場合もある。以下，そのような例も含め英語版で顕著に台詞が追加されている例を取り上げていくことにする。もちろん，アニメーション作品の音声吹き替え版は，映像上の人物の口の動きを無視して台詞を入れることはできないので，かなり制限がある。その制限のもとでも，あえて必要を感じた時に台詞が追加されると思われる。

引用9

| | | |
|---|---|---|
| Haku: | *You don't have much time. If you're found here, you'll be turned into a pig yourself. You must never come here without me.* | ハク： |
| *Sen:* | *I understand.* | 千： |

引用9は，物語の前半で，ハクが豚に変えられた両親のもとへ千を連れていく場面である。原作では，この箇所で2人ともまったく言葉を話さないが，英語版では台詞がある。しかも英語版の台詞にある内容は原作のどの部分でも台詞として人物が口にしていない。ではまったく話が違うものになってしまっているかというと，そうではない。口でこそ言ってはないものの，ハクも千も共通に理解していると思われるものが英語版で台詞となっているのである。原作での暗黙の了解が英語版で明示的な台詞となっているといえる。

引用10

| | | |
|---|---|---|
| Sen: | Mom. Dad. Are you all right? It's me, Sen. Hey, wake up! Mom. Dad. | 千：お父さん，お母さん。私よ。せ，千よ。お母さん。お父さん。 |
| | What' s wrong with them? Are they sick? | 病気かな。怪我してる？ |
| Haku: | No. They ate too much. They're sleeping it off. They don't remember being human. *So look hard. It's up to you to remember which ones they are.* | ハク：いや，おなかがいっぱいで寝ているんだよ。人間だってことは，忘れている。 |

引用10は，引用9の場面の続きである。この箇所の最後でイタリクスで示した，ハクが千にしっかりと彼女の父と母の姿を心にとめておくように言う台詞は，原作にはない。これもまた，暗黙の理解を言語化したものといえる。

引用11

| | | |
|---|---|---|
| Sen: | Wow. It really is the sea. There' s mom and dad' s pig pen. *I sure hope they' re doing all right over there.* | 千：あ，本当に海になってる。ここからお父さんたちの所，見えるんだ。 |

引用12

| | | |
|---|---|---|
| Sen: | Everyone, I need my shoes and clothes, please. *I guess my parents have to wait.* | 千：みんなっ，私の靴と服お願いね。 |

引用11は油屋から豚小屋を眺めた千の台詞，引用12は銭婆のもとへ出発するときの千の台詞である。引用10から一貫していえるのは，千が父親と母親を心配する声が明示的な台詞として加えられているということである。原作でははっきりと表現されていない千が両親のことを心配する気持ちを，英語版では明確に出す必要を感じたと考えられる。

引用13

| | | |
|---|---|---|
| Chihiro: | Haku | 千尋：ハク。 |
| Haku: | Let' s go. | ハク：行こう。 |
| Chihiro: | Where are my mom and dad? | 千尋：お父さんお母さんは？ |
| Haku: | *When you passed the test, they woke up on the human side of the river. And they' re looking for you.* | ハク：先に行ってる。 |
| Chihiro: | There' s no water here! *I can walk across now.* | 千尋：水がない。 |

引用13は，物語の終り近くで湯婆婆からの最後の試練を無事にくぐりぬけた千尋が，ハクと手を取り戻っていく場面である。原作では，寂れた店が並ぶ風景の中を２人がほとんど無言で駆けていくだけなのだが，英語版ではそこにハクの声が入り，具体的には描かれない父親と母親に起った状況の変化を説明している。最後は，千尋が水がなくなっているのに驚いた言葉だが，これにも台詞が足されている。この場面は，これらの追加された台詞がないと，アメリカの視聴者が物語りの理解に困難を感じるかというと，かならずしもそうとは思えない。むしろここは，沈黙の間を埋めるために台詞が入れられていると考えられる。

引用14

| | | |
|---|---|---|
| Mother: | *Come on, Chihiro. Let's g to our new home.* | 母：オーライ，オーライ。平気よ。 |
| Father: | *You're not scared, are you?* | 父：ちひろ，行くよ。 |
| Mother: | *Don't be afrarid, honey. Everything's going to be OK.* | 母：ちひろ，早くしなさい。 |

Father: *New home, and new school. It is a bit scarey.*　父：

Chihiro: *I think I can handle it.*　千尋：

引用14は，映画最後の場面である，無事にトンネルを抜けて現実の世界に戻ってきた千尋の父親と母親が，何事もなかったかのように新居へ向かおうとする光景である。原作では，両親が車の方向転換をしてから千尋を呼ぶだけで，その後は車が走り出す効果音で物語は終るのだが，英語版では，怖がることはないと両親が千尋にしきりに言う。さらに物語の最後に英語版では，父親の不安に思うことは誰にでもあるとなぐさめる声と千尋が大丈夫だと応える声が挿入されている。この台詞のやりとりにより，千尋の成長が明示されている。

## 3．まとめ

以上，『千と千尋の神隠し』とその英語版 *Spirited Away* を比較し，その台詞において顕著に異なる点について考察してきた。ここには，異文化の橋渡しとしての翻訳全般に共通する問題と，映像作品の英語版というメディアに特有の問題がみられる。

これら2つの比較で明らかになったのは，*Spirited Away* は，かなり忠実な翻訳として製作された英語版であると考えられるにもかかわらず，原作にない台詞の書き加え箇所がかなり多いことであった。等価物という考え方からすると，原作と翻訳のバランスが文学作品のそれに比べて偏っているようである。もちろん，上でも若干述べたが，意味内容が読者に確実に伝わるようにするために，翻訳の方が言葉を多く使うことは文学作品においても広範囲で見受けられる現象である。しかし，これまでみてきたことで明らかなように *Spirited Away* における翻訳の方が，原作に対してはるかに自由な書き加えを行っているといえる。そしてその多くは物語の合理性と明示性を補強するものとなっている。日本文化の表現のあいまい性とアメリカ文化の表現の明示性をその背景として想定することができよう。もうひとつの書き加えの理由として，原作における沈黙の間をうめるためということが考えられる。この背景として，よく言われる沈黙の日本文化と明言のアメリカ文化という対比を考えることができる。ただし，Dean C. Barnlund は，この図式をあまりに単純に普遍的なものと考えることに意義をとなえている（141-143）。たとえば，ハリウッドを中心とするアメリカ映画産業の文化のようなものも想定した複合要素を視野に入れた考察が必要かもしれない。翻訳論として日本アニメの映画版を問題にする際には，そこに様々なファクターが働いていることを当然ながら念頭に置かれなければならない。Gambier&Gottlieb が確認しているように，マルチメディアの翻訳はチームワークによるものであり，様々な考えが複合的に反映されるからである（Introduction, xi）。

この英語版スクリプト作成にあたったのは，Don Hewitt と Cindy Davis Hewitt 夫妻である。*Anime World Magazine* と *The Hayao Miyazaki Web* に掲載されたインタヴューから，彼らのこの仕事に向かった姿勢と英語版製作のプロセスをうかがい知ることができる（“Avoiding Speed Racer,” “An Interview with Cindy and Don Hewitt”）。それによれば，当然の方針ではあるが，まず重要な点として彼らが考えていたのが，アメリカの視聴者にとって話がわかりやすいものとなっているかがある。それと同時に宮崎駿監督の作った世界を損なわないように配慮するということも重要なポイントであったようである。これは英語版製作の総監督である John Lasseter によって徹底された。ある意味では，言葉の等価物というレベルでの相異の向うで，文学作品などの場合とは異なる大きな枠組みの中においての，原作と翻訳との等価物に関する配慮が働いていたといえよう。基本的なプロセスとしては Hewitt 夫妻がスクリプトを書きそれに Lasseter が指

示を出すというものであったようである。残念ながら詳細については，明らかにされていない。Hewitt は，日本文化に特に造詣が深いわけではないこと，また英語版の製作の初めに彼らが参照したのは，直訳台本と英語字幕であったことなど，興味深い事実が散見されるのであるが，残念ながら現時点では，詳細なプロセスを知る資料については筆者未見である。

ただ，一ついえることは，この英語版はきわめて慎重な作業を経てなされた，質の高い翻訳であり，そこには 2 つの異文化の境界における意味を伝えるための様々な工夫がなされているということである。もちろん，そこには映画産業の持つ独特の文化もまた大きな要因として存在しているわけであるが，今後拡大していくと思われる翻訳論の考察において，この作品はまだ多くの視点を提供してくれるものと思われる。また，ここではもう一つの翻訳ともいえる，この作品の英語字幕については，紙面の都合もあり考察の対象としなかった。今後の課題としたい。

## 引 用 資 料

（1 次資料）

映像作品

『千と千尋の神隠し』. 宮崎駿監督. スタジオ・ジブリ, 1999.

*Spirited Away*. Dir. Hayao Miyazaki. U.S. director Kirk Wise. Buena Vista Pictures, 2002.

文 献

*Spirited Away*. English Adaptation by Yuji Oniki. Viz Communication, 2002.

宮崎駿.『スタジオジブリ絵コンテ全集13 千と千尋の神隠し』. 徳間書店, 2001.

（2 次資料）

文 献

草薙聡志.『アメリカで日本のアニメは，どう見られてきたか？』. 徳間書店, 2003.

津堅信之.『日本アニメーションの力－85年の歴史を貫く 2 つの軸』. NTT出版, 2004.

日経BP社技術研究部 編.『進化するアニメ・ビジネス：世界に羽ばたく日本のアニメとキャラクター』. 日経BP社, 2000.

スーザン・J・ネイピア.『現代日本のアニメ：『AKIRA』から『千と千尋の神隠し』まで』. 神山京子訳. 中央公論新社, 2002.

Barnlund, Dean C. *Communicative Styles of Japanese and Americans: Images and Realities*. Belmont, California: Wadsworth Pub. Co., 1989.

Bassnet, Susan. *Translation Studies*. 3rd ed. New York: Routledge, 2002.

Gambier, Yves, and Henrik Gottlieb, ed. *(Multi) Media Translation: Concepts, Practices, and Research*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Pub. Co., 2001.

Nida, Eugene. *Toward a Science of Translating*. Leiden: E. J. Brill, 1964

Venuti, Lawrence, ed. *The Translation Studies Reader*. New York: Routledge, 2000.

オン・ライン資料

"Avoiding Speed Racer: Adapting Spirited Away." *Anime World Magazine*.
<http: //mag.awn.com/index.php?ltype=search&sval=Miyazaki&article_no=1541.

"An Interview with Cindy and Don Hewitt." *The Hayao Miyazaki Web*.
<http://www.nausica.net/miyazaki/interviews/hewit_ingterview.html